

教育システムと創発的な取り組みをつなぐ長期学外学修プログラム

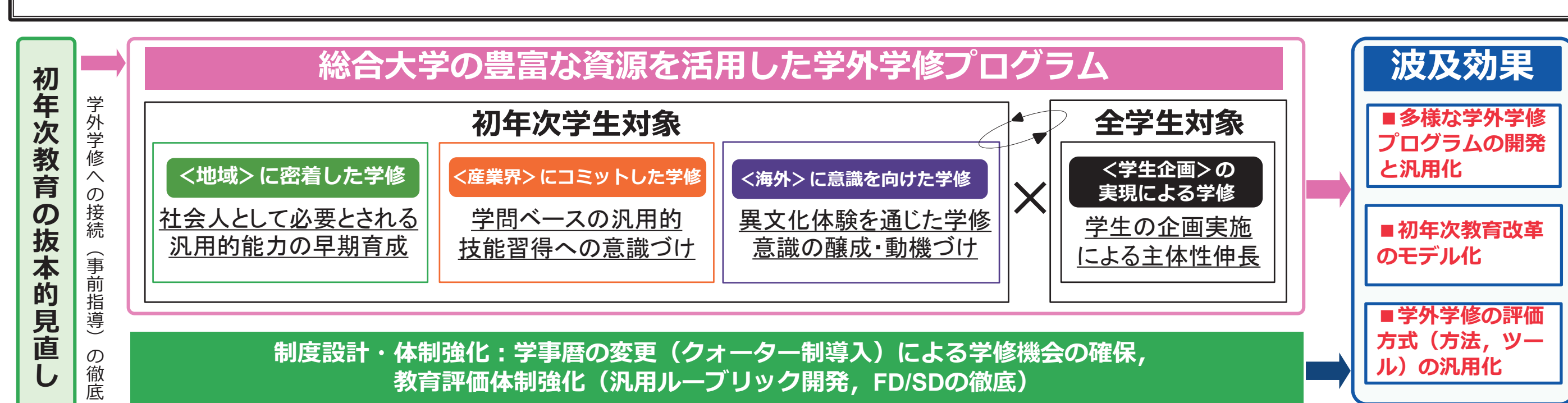
I. 教育システムの基盤構築

1. 新潟大学の教育改革の経過

H16-	全学科目化 (科目履修の弾力化, 科目の体系的配置の可視化)
H18-	主専攻プログラム化 (人材育成目的の明確化, 到達目標の設定)
H22-	新潟大学学士カアセスメントシステム (NBAS) の開発 (学生の自律的な学修の支援, 教員の意識改革)
H25-	学士課程教育の質保証システムの強化
H27-	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業COC+) 大学教育再生加速プログラム (AP)

2. 全体構想

「自律と創生」を体現し、激変する社会に耐えうる主体的学修者を育成するための転換教育体制を構築
 ◆**クォーター制**導入による学修の重点化と初年次教育改革を契機とした**全学的なカリキュラム改革**
 ◆**初年次を対象とした「地域」「産業界」「海外」**における多様な学外学修プログラムを**授業科目として単位化**
 支援期間終了(令和元年度)までに**初年次学生の28%(約670名)**が長期学外学修履修を目指す



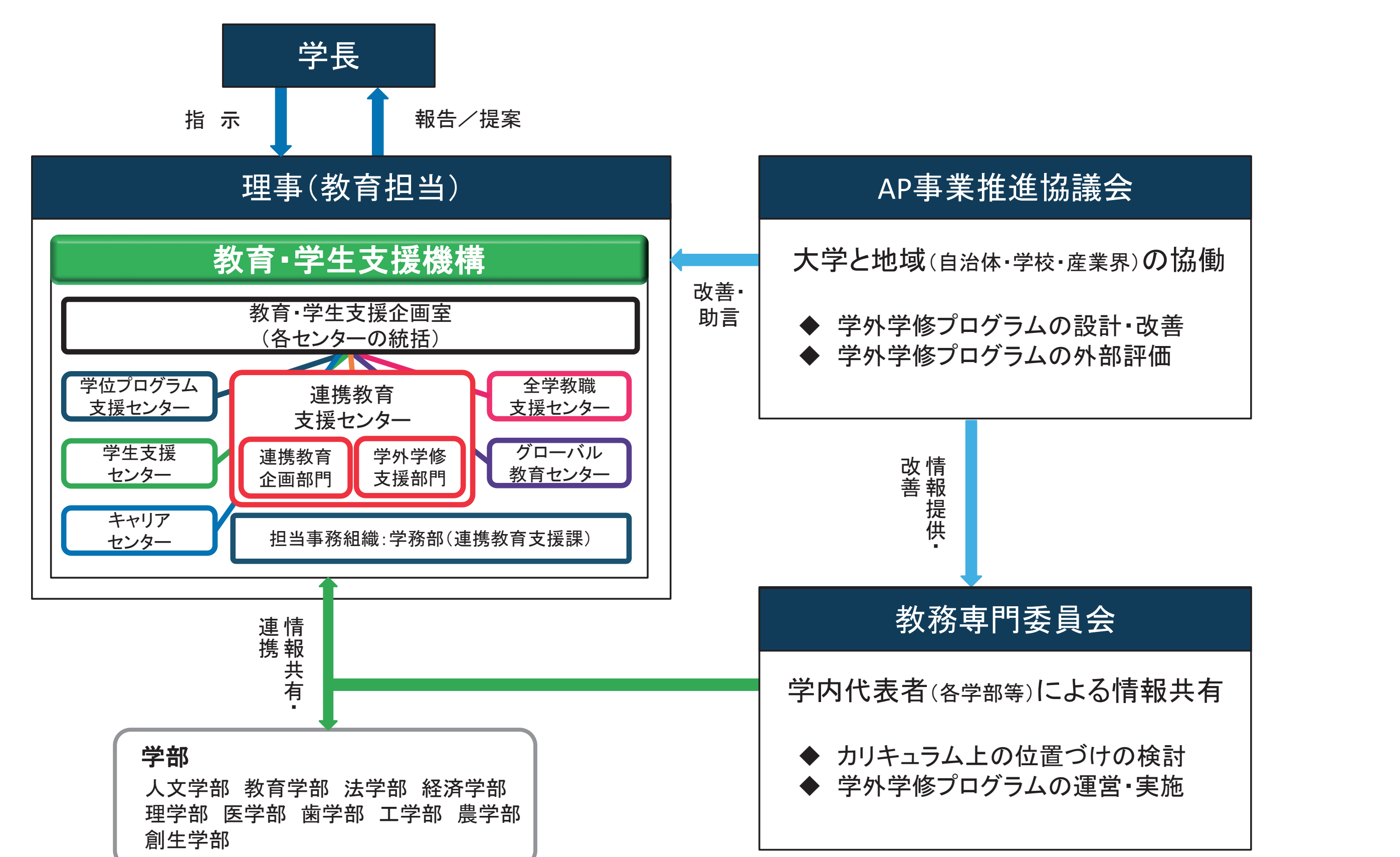
【本学の教育改革構想 (H28~R3) との連動で推進】
 ✓ 学生の学修に対する主体性と動機づけを高めるために**初年次を中心とした長期学外学修を推進** (第3期中期計画)
 ✓ 平成29年度から**学事層の柔軟化 (クォーター制への移行)**

3. 教育組織再編 (平成29年4月) との連動

教育組織再編との連動で、教育課程における初年次教育のあり方をそれぞれの学位プログラムで検討
「どのような人材を育成するのか」「どのような能力を初年次から涵養するのか」
 = **大学教育における質保証のあり方を考える契機**

- 「理学部」「工学部」「農学部」の改組
 ⇒ 初年次の教育課程に「能動的学修 (アクティブラーニング)」又は「インターンシップ」に関する授業科目を配置
 ⇒ 工学部 (領域融合型プログラム) で初年次の長期学外学修を必修化
- 「創生学部」の新設
 ⇒ 入学後の早い段階に4週間程度の学外学修を必修化し、学修への高い動機づけを維持させる
 ⇒ 初年次第2タームに必修科目「フィールドスタディーズ (学外学修)」を配置

4. 実施体制



5. 長期学外学修の本格的展開 (令和元年度)

対象学部等	開講科目
全学部	コミュニティー・インターンシップ入門・実践, 学校支援フィールドワークA・B (小学校・中学校・高等学校), 授業フィールドワーク, ダブルホーム活動演習, 現場訪問とデータから読み解く新潟の今-新潟地域産業の可能性を探る-, 1・2年生対象 長期・企業実践型プログラムI・II, 新潟産業フィールドワーク
人文学部	インターンシップ実習, 表現プロジェクト演習Q・I, フランス言語文化海外研修
教育学部	教育実践体験研究I-IV
経済学部	インターンシップ, 会計税務インターンシップ
法学部	インターンシップ (実習1-7)
医学部	早期医学体験実習(EME), 国際保健医療学
歯学部	短期海外派遣実習, 選択実習Ib
理学部	台湾スプリングセミナーI・II
工学部	異文化と技術, マーケット・インターンシップ, テクノロジー・インターンシップ, 国際マーケット・グループワーク・インターンシップA・B, キャリアデザイン・インターンシップI・II, 課題解決インターンシップI, 国際研修, 海外英語研修
農学部	キャリアビジョン研修, 海外語学研修, グローバル農力, グローバル防災・復興学, 学科インターンシップ
創生学部	フィールドスタディーズ (学外学修), 地域・国際交流B
海外プログラム	北京サマーセミナーI・II・III, 韓国サマースクールI・II・III, カナダ・サマーセミナーI・II, フィリピンALLC英語研修, 多文化共生社会体験in AUSTRALIA I・II, シンガポール・スプリングセミナー, オックスフォード大学英語研修

II. 創発的な取り組みの展開

1. 学生の主体的な企画活動 (正課) (令和元年度)

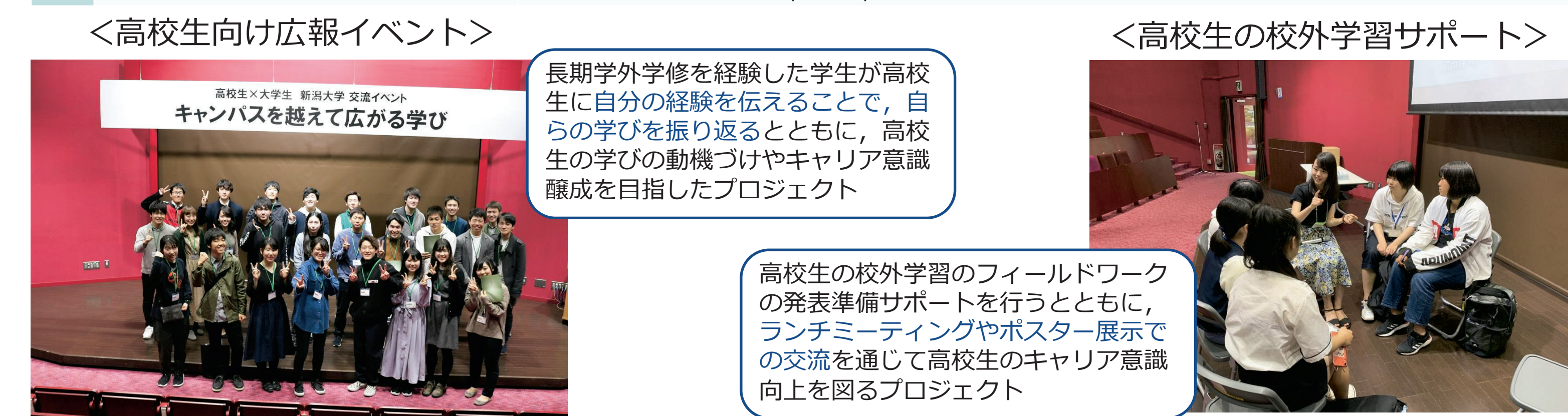
No	授業科目名	プロジェクト名	概要
1	コミュニティー・インターンシップ入門	いがたの「おいしい」を伝えよう	いがたの「おいしい」を定義し、より多くの人に認識してもらうための企画を提案する
2	コミュニティー・インターンシップ入門	ワクワクいがた駅	新潟の魅力をもっと新潟の楽しみ方を提案する
3	コミュニティー・インターンシップ実践	阿賀町におけるダブルホーム学生の意識調査	地域活動に参加する学生間、学生と大学、大学と地域の認識のズレを明らかにし、解決策を提案する
4	コミュニティー・インターンシップ実践	大学生のための民泊プロジェクト	学生自身が民泊を体験するとともに、民泊の魅力を伝えるための広報媒体の作成を行う
5	コミュニティー・インターンシップ実践	20歳, 初めてのSAKE	学生に日本酒の魅力を伝えるため、酒造会社にインタビュー取材して広報活動を行う
6	プロジェクトゼミ (創生学部)	西区地域資源(浜辺)を活用した「釣り」による若者と市民の交流	新潟大学生が西区の活用可能性を模索し、地域住民との交流を図るために釣り講座と地元産材をベースとした交流を行い地域資源の理解向上を目指す
7	プロジェクトゼミ (創生学部)	西区の農家や生産物を通じて食品ロスの意識向上, 西区の豊かさ, 魅力を知るプロジェクト	食材の生産者との直接的な交流を通じて食品ロスへの意識醸成と暮らしの豊かさをアピールする
8	プロジェクトゼミ (創生学部)	大学生向け新潟市及び西区地域の魅力に魅了する交流会	新潟市職員を講師とした交流会を実施することで、地域の魅力や取り組みを知るきっかけとする
9	プロジェクトゼミ (創生学部)	学生による西区内野エリアまちあるき番組の制作	西区のまちあるき番組を作成し、大学生に視聴してもらうことで地域への愛着を培うきっかけを作る
10	プロジェクトゼミ (創生学部)	大学生のファッション意識の向上を目的としたフリーペーパーで西区の事業所を紹介するプロジェクト	学生のファッション意識の向上を目指すフリーペーパーを作成し、その中に西区事業所の情報を掲載することで、若者の認知度向上を目指す



コミュニティー・インターンシップ入門最終報告会の様子

2. 学生の主体的な企画活動 (正課外) (令和元年度)

No	プロジェクト名	概要
1-17	ダブルホーム活動	地域の思いと向き合う中で「自分たちに何が出来るか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察する
18	酒米田植え・稲刈りプロジェクト	持続可能な産業開発を目的として、学生・酒造会社(麒麟山酒造株式会社)・地元農家が連携した田植え・稲刈り研修プロジェクトを実施する
19	高校の校外学習サポートプロジェクト	高校生(筑波大学附属坂戸高等学校)の校外学習のフィールドワークの発表準備サポートを行うとともに、キャンパスライフをテーマとしたランチミーティング及び長期学外学修ポスター展示による高校生との交流を実施する
20	キャンパスを越えて広がる学び	長期学外学修を経験した学生たちが、高校生や一般の来場者に対して自分の経験を伝えることで、自らの学びを振り返るとともに、高校生の学びの動機づけやキャリア意識醸成の一助とする
21	新発田サミット	一流シェフが作る料理を食べながら、新発田市の生産者、関係者の話を伺い、様々な世代間の交流を通じて、参加者主体で新しいアイデアを考える
22	小千谷サミット	「小千谷縮」「へぎそば」などの特徴的な資源を切り口にして、小千谷市の様々な魅力に触れるために小千谷市の関係者、学生、一般参加者が交流する空間を創出する



3. AP事業認知度向上に向けて：学生広報チームの活動

- 学生のアイデアや知恵を借りながら、教職員・学生が協働で学外学修広報の問題を探索・改善
- 学外学修プログラム広報の課題分析
 - 教職員と学生の協働によるプロジェクト体制
 - 新しい広報企画の立案
 - ウェブサイトの改善 (インタビュー, 学生体験談)
 - 各種イベントの実施 (高校生向け)
 - AP事業のサポート
 - シンポジウムのサポート, 報告書等の書類整理補助

4. 多面的な広報活動



III. 総括

1. 5年間の取り組みの成果

- 社会連携による長期学外学修プログラムの安定的運用
 - 連携教育支援センターを中心として、**安定的な長期学外学修プログラムの運用**が実現 (令和元年度開講: 80科目)
 - 最終目標値 (初年次学生の28%) を達成見込み
 - 5年間を通じた「AP事業推進協議会」の定期的な開催により、社会と連携した人材育成の議論を実施

2. 今後の展開の方向性

- 何を学ぶのか：学びの幅の次元から
 - 実践性vs学術性ではなく、教育プログラム全体としてどのように人材を育成するべきかの議論が重要
 - 主専攻プログラム, 副専攻, 学外学修などを組み合わせでどのような仕組みを作っていくか
- どのように学ぶのか：時間軸の次元から
 - 正課・正課外の活動, 学生支援を含め、4年間の時間軸でどのような機会を提供するかをデザインする必要性あり
 - 入口 (高大接続) から出口 (社会連携) までの教育の質保証

- 創発的な取り組みと社会への発信
 - 学外学修プログラムの成熟に伴い、学生を主体とする企画が展開 (正課10件, 正課外22件) ※令和元年度
 - **学生を中心とした広報**の発展的展開 (筑波大学附属坂戸高等学校との連携, 高校生・保護者に向けた広報イベント)
 - **多面的な広報活動**の展開 (テーマIV採択校及び関係機関と連携した書籍刊行, 各種メディアへの掲載 [新潟日報 他])

AP事業5年間の批判的検討
 → 社会と連携した総合的な人材育成の議論へ